5月16日号
第2581号
2002年（平成14年）
（昭和24年5月10日　第三種郵便物認可）

発行所
財団法人　海上保安協会
〒104-0045　東京都中央区築地　5－3－1
電　話　03－3542－3678～9
ＦＡＸ　03－3541－9085
（毎週木曜日発行）
購読料　月極610円　送料共

海上保安新聞

黒松　千福
株式会社　三宅本店〈広島・呉〉

W杯警備「対策本部」設置

釜山で日韓合同訓練

本番迫る　関係管区にも設置

五月三十一日から約一カ月間、日韓共同で開催されるサッカー・ワールドカップのテロ、フーリガン対策に備え、海上保安庁は五月十五日、「二〇〇二年FIFAワールドカップ安全対策室」を改組し、対策本部（本部長・警救監）に昇格、関係の一～九管区本部にも安全対策本部を設置した。W杯開催に向け、韓国海洋警察庁や国内関係機関などとの連携と、海上警備を強化し、海上の安全確保と治安の維持に万全を期す。

新潟港で行われた九管の公開訓練。ヘリコプターの風圧でフーリガンを制圧する

九管など公開訓練

政府は警察庁、国土交通省・海上保安庁など関係省庁からなる安全対策部会を設置して安全対策を推進、昨年五月からは同安全対策部会と韓国の安全対策統制本部が出席して日韓定期協議を開催し、テロ、フーリガン対策についての情報交換や密接な連携での安全確保について協議してきた。

海上保安庁は海洋警察庁と共同警備について協議を重ね、五月十五日に韓国・釜山で日韓海上警備合同訓練を行うとともに、日韓間フェリーなど旅客船への警乗、沿岸での警備体制強化、不審船舶の早期発見や立入検査の徹底など水際対策の徹底を図る。

管区での公開訓練は九管が十三日に新潟港で行ったほか、一管が十七日二カ所で、二管が二十七日、カーフェリーを使うなどフーリガン対策訓練を行う。

（九管訓練の詳細は6面に）

フーリガン移送　民間フェリーで

武装保安官警乗

扇千景・国土交通大臣は五月十日、閣議後の記者会見で、法務省から依頼のあったW杯のフーリガン移送について、入国管理局が北海道苫小牧港から茨城県大洗港への民間フェリーで移送することで海上保安庁と合意したと述べた。

これを受け、海上保安庁はフェリーに武装した海上保安官を乗船させて警備に当たるとともに、巡視船での警戒を行う。

2002海上保安レポート公表

「海上保安の日」に　政策評価制度を反映

海上保安庁は五月十三日、「2002　海上保安レポート」を公表した。昨年、海上保安白書から衣替えしてから二回目。従来は夏か秋に公表していたが、海上保安庁創設記念日（五月十二日）に併せての公表とした。形式は昨年をほぼ踏襲しているが、十三年度から取り入れられた政策評価制度を反映して、本編の各項目を「目標」「目標の達成度」「目標に向けた取り組み」に分け、一年間の目標と、何をしてきたか、これから何をしたいかが分かりやすいような編成とした。

（2面にレポートの概要）

構成は、長官からのメッセージに始まり、トピックス（昨年八月から今年四月までに起きた出来事一七）、数字で見る海上保安庁、特集と本編（業務の目標、現状、課題）。特集は近年の海上保安庁の最重要課題である海の組織犯罪抑止に焦点を当てた「海の治安は海保におまかせ！」と、創立一三〇周年を迎え社会のニーズに応えるため水路部から変身した「海洋情報部に注目！」。

本編は昨年の二本立てから❶治安を維持するために❷海の安全を確保するために❸安心できる暮らしと環境を守るために❹グローバル化する業務ニーズに対応するための四本立てとした。❶では密航・密輸対策、領海警備等、外国人漁業の取締り、❷では海上交通の安全確保、海難の救助、マリンレジャーの安全推進、❸では海上防災対策、海洋環境保全対策、❹では国際協力、世界の主な海上保安機関の項目。

ところどころに「海上保安最前線」という囲み物のほか、コラム欄を新設、「シーライフを充実させよう」「海の相談室・豆知識、こぼれ話」をちりばめ、マリンライフに役立つことや、エピソードが盛り込まれている。絵や写真をふんだんに使い目で見る効果と海上保安庁のイメージキャラクター「うみまる」が案内役を務め、親しみやすいよう工夫されている。

巻末には「海上保安庁の体制」と資料編が付いている。さらに、レポートすべてを収録したCD－ROMを付け、パソコンで内容が見られる。本文の各項目にインターネットのアドレスが入っており、本文から必要なホームページが開けるため、最近の動きもつかめる。本文にはない動画集があり、動画からも本文のページに入れる。

A4判一三七ページ、定価一、五〇〇円（税別）。政府刊行物販売所と㈶海上保安協会で購入できるほか、一般の国民に広く知ってもらおうと今年から営団地下鉄の売店とコンビニの計六六店舗でも販売する。

引き揚げの情報得る

不審船　潜水調査の結果を公表

十管本部は、五月十三日、奄美大島沖の沈没不審船の有人潜水調査の結果を発表、船体引き揚げに必要な技術的情報がほぼ得られたとしている。引き揚げについては、政府部内で検討されるが、十管本部は連続作業をしても期間は約一カ月かかると見て、六月中には作業に着手したいという。

発見されたのは右舷船首付近で、遺体二体とロケットランチャー様の物二個、機銃様の物一個、自動小銃様の物一個、複数の弾帯、弾倉、弾丸、薬きょう、ビニールシート、ヘルメットなど約三〇点が回収された。遺体は三日と六日に収容された。三日のは身長一六一㌢、六日のは一六七㌢。いずれも腐敗が進み一部は白骨化しており、カーキ色の防寒ジャンパーを着ていた。

ROV調査時と同じ　船体は折れていない

調査したのは奄美大島の西北西約三九〇㌔の水深約九五㍍の海底に沈没した不審船とその周辺。五月一日から八日まで民間のサルベージ会社二社に委託し、有人潜水艇と大気圧潜水士により調査された。船体は二月二十五日から三月一日まで行った自航式水中カメラ（ROV）での調査とほぼ同じで、船体が折れ曲がったりはしていなかった。

不審船事件、W杯警備…・

緊迫の中『海保の日』祝う

海上保安庁は「海上保安の日」（五月十二日）に際し全国各地でさまざまな行事を行った。本庁では十三日午前、殉職者追悼式、夕刻に長官表彰授与式のあと、祝賀会が開かれた。全国では十二日を中心に巡視船艇の体験航海・一般公開、施設開放のほか、海上保安展などの催しが行われ、国民とともに記念日を祝った。

（殉職者追悼式は3面に）

祝賀会は十三日午後五時四十五分から国土交通省十階の共用大会議室で開かれた。中谷元・防衛庁長官ら国会議員や関係省庁幹部、関係団体の役員、外国公館、海保OB、海保友の会役員ら約四一〇人が出席した。

縄野克彦長官は「昨年十二月発生した奄美大島沖の不審船事件はじめテロ対策の海上警備、海上交通の安全など海上保安業務は国民の目に触れない場所で行われており、国民によく理解されないので、皆さんにご支援頂きたい。また、国民の目が届かないところでやっているので、独りよがりにならないよう、国民の評価を教えていただきたい」とあいさつ。

扇千景・国土交通大臣は不審船事件で三人の負傷が出たことに触れ、職員の安全確保と不審船対策の充実・強化を図り、国の安全と国民の安心確保のため決意を新たにして取り組んでいきたい、と述べた。

亀井善之・元運輸大臣の祝辞、月原茂皓副大臣の音頭で乾杯して懇親会入り。現役と来賓との間で不審船事件での対応など最近の海上保安業務について懇談していた。

会場では、海上保安庁音楽隊が開会前や会の途中で演奏し、花を添えた。

潮流

▼コンピューター・ハッカーやサッカーのフーリガンのことは、どうも理解できない。社会の閉塞感が強まり、ストレスや不平不満が鬱積することは分かる。だが、何かの役に立つようなことに発散した方がどんなに、すっきりするだろうというのが普通人の感覚ではなかろうか▼サッカーワールドカップの警備のため、海上保安庁は観閲式を延期せざるを得ず、毎年六月に行っている「海洋環境保全推進週間」と「海上環境事犯一斉取締り」の全国実施ができなくなった。海難救助、海上交通の安全確保、環境保全など社会に役立つべき海保の仕事が無法者のために阻害されてしまう▼不平不満を爆発させて一時的に満足しても、後には空しさだけが残るはずだ。ヒトと生まれたからには、社会や人の役に立つことをして生涯を終わりたいものだ。トルストイは言っている。「ここが、この世が、私たちの奉仕の場所である。この世における奉仕を成し遂げるために、私たちの全力が集中されなければならない」。

週間海難情報

5月6日(月)～5月12日(日)

五月十日午後二時三十八分、タンカーSUNGIL№7（一九七㌧、乗組員三人）から「紀伊大島の東北東約六海里で機関故障により漂流している。救助頼む」と118番により救助要請があった。

田辺保安部が巡視船艇三隻と八尾航空基地所属機一機を出動させた。

現場海域は天候が悪く、乗り揚げの恐れがあることから、午後六時十五分ごろ、巡視船「いず」により曳航開始、午後九時三十六分、船主手配の曳船に引き渡し、翌日、和歌山港に入港した。

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は八隻、二〇人だった。

種類別	隻数
衝突	8
乗り揚げ	4
転覆	1
火災	1
爆発	0
浸水	1
機関故障	5
推進故障	3
舵故障	1
行方不明	0
その他	4
計	28